

人間萬事虛設計

後編

上



人間

門へ 18  
2018  
巻 2

らん

虚けり

うら

後編

滝亭鯉丈著

歌川国貞画



人間萬事虚誕計後編叙

旨語を禁む法如道さえ濟度の

為す方便あり。まゝ凡夫

松以てや。法未弥次郎

乃中。ボンと放屁を其をく



實説の行達。言詞達也人情也。

實でもなく華でもなく。以て

大なる童戯人艶言文華也。

くもれ。机上下。溜も無位也。

もみん積。邪魔と成る反。

古を集言持ゆく者。作者根生板。

元魂二役兼備の二世楚満人。今も

為永まみ。名を改るもあらず。あね。

中。歌を春水。溜も。他。

妻形。彼の威。集を綴。何をも。

校合繪まじりあはせり浄書じやうしよまで仕上りしやうじやう瀧亭たきてい  
 鯉丈作こいぢやう空言くうげんののうらこの後編こうへんと表げ  
 題だい子知しまてうまの皮くわ本町庵ほんぢやうあんの名なを  
 借かり言ことばの系けい年ねん一度いちどまゐるまゐ虎この皮くわと明あ  
 白しろ子見こみ比ひるる化けの皮くわ子こぬぬ張はりの面おもての皮くわあり

しましむの作しやう去きらりり拙つた筆ひしふふ端はた圭けい  
 ししままのの皮くわ子こぬぬ張はりの面おもての皮くわあり

天保四癸巳てんぽうしゆいしに始はじめり孟陽まうやう

瀧亭鯉丈述たきていこいぢやう 圓まる



月三

人間萬事虚誕計第二編目次

○ 稽古所の吁詐

○ 奉公人請人の吁詐

○ 喧嘩の吁詐

○ 孀女の吁詐

○ 解和人の吁詐

○ 水茶屋の吁詐

○ 浮氣妾の吁詐

○ 利風流の吁詐

○ 町藝者の吁詐

嘘言の誓吉所



法類の  
美艶  
仙女香  
はあゝの  
その茶  
黒油美玄香  
右両帯も相らう  
は野利の上茶ふんてん

販元涌泉堂



田舎





この巻の三巻

替古所乃實演



ひさびさのまじり

サアおつら早くめで舞ふまじり  
間をえんれ長ら尻をわねれるウ。今夜ハ  
盆助さんぐまじあめひ又九つにわに  
ころもていあきいん同きんの清るまじ

あまらせ。あせマがきよんていさう。持しんてまの  
声ぞ清きまを清らして思ひしものゝ氣が言れ福入  
あの人を清らさかて福入とせんあ人小馬鹿に  
志あんとて久しに化降しもの。骨をあつてか  
だのあ。あまのいん小見身親於あ。美見とてい

あまのいん

美見

ちやうどはるるていしに、ついでに、  
すはらむるゝかまへしに、若くは、  
又天物なる人、そのやうな、  
ある、その、その、  
徳、その、その、  
か、その、その、  
せ、その、その、  
て、その、その、  
それ、その、その、  
入、その、その、

○あら、あら、あら、あら、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、

請人の  
呼詐

ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、



奉仕人請人九寶演



Handwritten text in a cursive style, likely a play script or a collection of poems. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It includes various characters and symbols, some of which are accompanied by small annotations or markings.

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text on the right side of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of dense script.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of dense script.

誼  
呼  
詐  
乃



水鏡花入武人三上人

六

誼の實意



○はるなるのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむのたむのたむのたむ

はるなるのたむ





Handwritten text on the right edge of the page.

Main body of handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

外田

5 年 1 月

Grid table with orange lines, used for structured writing or accounting.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and includes several lines of dense writing. Some characters are written in a larger, more prominent style, possibly indicating specific names or titles. The text is oriented vertically on the page.

外田



